

バッサミン配合錠A81の簡易懸濁法における検討

試験目的

本製剤につき、簡易懸濁法の適用の可否を確認した。

試験検体

バッサミン配合錠A81

Lot. 771615

測定方法

○崩壊懸濁試験：ディスペンサー内に本品1錠を入れ、55℃の温湯20mLを吸い取り、5分間自然放置した。5分後にディスペンサーを90度で15往復横転し、崩壊懸濁の状況を確認した。5分後に崩壊しない場合、さらに5分間放置後、同様の操作を行った。

○通過性試験：崩壊懸濁試験で得られた懸濁液を経管栄養チューブの注入端より2～3mL/秒の速度で注入し、チューブのサイズ、8、12、14、16、18フレンチ（以下Fr.とする）において通過する最小経管栄養チューブのサイズを確認した。

○55℃の温湯での安定性：本品1錠を55℃の温湯20mLに懸濁させ、15分間放置後、アスピリン、ジヒドロキシアルミニウム アミノアセテート及び炭酸マグネシウムの含量を測定した。

試験結果及び結論

結果を下表に示す。本製剤は簡易懸濁法適用可能と判断した。

表 崩壊懸濁試験、通過性試験及び温湯中安定性試験結果

崩壊懸濁状況		5分の時点で崩壊懸濁した
最小通過サイズ		8Fr. チューブを通過した
含量(%)※	アスピリン	99.2
	ジヒドロキシアルミニウム アミノアセテート	100.0
	炭酸マグネシウム	101.2

※懸濁直後の含量を100とした残存率で示した。